

2.22 東北地本第20回地本委員会 春闘方針及び組織化対策を確認



秋田市中通6-7-36
全国林野関連労働組合
東北地方本部
発行者 高橋 茂
責任者
TEL 018-832-6957
FAX 018-834-7876

▼書記局予定▲
4月3日 2025年度新規採用者説
明会
4月26日 各県連合ミーデー
●各級選挙投票日
4月6日 秋田県知事選挙
秋田県議会補欠選挙
秋田市長選挙



web出席者

2月22日秋田市フォーラムアキタを主会場として、web形式による第20回地本委員会を開催しました。開会にあたって古村副委員長からの挨拶、庄司選挙管理委員長から各分会地本委員の出席確認の報告があり、回線等のトラブルはありましたが、地本委員全員が出席し、委員会が成立していることを確認しました。議長については、web形式であることから、本会場から出席している秋田県協の菅原委員(秋田分会)を選出し、以降議事次第に基づき委員会が進められました。



本会場出席者

①2024年度統計監査報告(上半期)の報告が行われ、満場一致で承認されました。議案については、伊藤書記長から、
①2024春闘方針及びびスローガン(案)
佐藤総務財政部長から、
②2024年度統計監査報告(案)
菅原委員(秋田分会)から、
③2025年度統計監査報告(案)の提案がされ、質疑討論に入りました。なお、質疑討論の内容については、後段に記載します。



菅原議長(秋田分会)

最後に高橋青年女性委員長から読み上げられた闘争宣言(案)を採択し議事を締めくくり、菅原議長から解任の挨拶がされ、高橋地本委員長の音頭による団結ガンパロー三唱で地本委員会は閉会しました。地本として、引き続き、職場実態等の把握に努め、地本・分会が連動した要求書提出や当局交渉に繋げていくこと。また、組織態勢の確立については、3月開催予定の地本組織化会議で意思統一し、状況によっては地本執行部も分会に入り、地本・分会が連携して取り組んでいきたいと考えています。

【各分会からの主な質問・意見(◎)・地本回答(●)の要旨】
◎生活関連経費の不足に伴い、署への経費削減が上局から求められているが、職員は署の除雪を自前で実施するなどやれることはやっ

高橋委員長
あいち(野田)



高橋委員長

7月の地本大会以降の秋年闘争、組織化対策などの取り組みに感謝。簡潔に3つの課題について。1. 点が国会・政治情勢。第217通常国会は2025年予算案審議が最大の争点、3月末までに結論を出すとする企業・団体献金禁止を巡る協議を含めて、与野党間の論戦が展開。2. 2025年予算案審議に向けて立憲民主党(野田代表)は「納税者の立場から支出をチェックする。我々の提案について予算案の修正を求める場面が出てくる。」と、経済政策や教育支援充実などの修正案を提出。しかし「自民・公明・維新、国民の野党は、自らが主張する103万円の壁、高校授業無償化などを実現させようとすり寄る場面も(見方によっては自民にすり寄られている)。衆議院選挙の結果、「キャスティングボード」といわれる野党は、国会(審議)を形骸化させていることに気づいてほしい。立憲は、与野党逆転・伯仲の政治状況下における野党第1党としての役割がますます重要。2つめに、春闘関連。

伊藤書記長
◎林道維持修繕のチャーターが予算不足で森林官が現場に行けず、山の状況が把握できない。
●林道チャーターの予算不足は認識している。労務単価等が上がっており、厳しい状況であるが、当局には責任ある対応を求めていく。
◎超過勤務時間は数字上、減少しているが実態はサービス残業が増えているだけではないか。調査をすべきではないか。
●超勤については当局の締め付けがあると認識している。個々の対応とならないように取り組んでいきたい。超勤時間に実績は当局から示させる。

◎賃上げ取り組みについて、若年層の引き上げが必要であることは理解しているが、中高年層も含めた全労働者が大幅賃上げとなるように取り組んでいただきたい。
●賃上げは、春闘の取り組

2025年予算、事業予定等の係る取り組み、組織拡大、2025春闘、さらには、7月の第27回参議院議員選挙、各級選挙など、連合、公務労協、関係団体と連携を図りながら取り組みを進めていきたい。
私たちが職場の状況(働き方)は、今の自然災害などに対応する業務や新たな政策の取り組みなども増え、事業実行に必要な予算も不足も要員も不足している状況。短期間の人事異動で職場の実行体制や指導体制が奪われ、そのことが、体調不良を訴える者が後を絶たない状況。若年退職に少なからず影響がある。これら課題の改善には、要求し粘り強く交渉を進めていくしかない。その要求の根拠は職場実態であり、実態議論が必要不可欠。
組織活動の再構築に向けて、まずは集まる場を作ること。仲間の声を丁寧に拾い、職場の問題点を明らかにし、改善に向けた取り組みを地本・分会が一体となって進め、その過程を通じて、組織強化と東北地本の最重要課題である組織拡大に繋げていくことが必要。

今年冬は、地球温暖化の影響によるものであろうか、日本海側では寒波の影響により降雪量が増え、大雪による災害等がニュースで報道される一方、太平洋側においては雨の降る日が少ないため乾燥が続く、山火事の発生が頻発化しており、近隣住民の方たちは避難指示が出され、日夜不安な生活を強いられている。もう暦の上では立春を過ぎていますが、まだまだ春が遠く感じています。▼2025春闘生活闘争にむけ連合は「四半世紀に及ぶ慢性デフレに終止符を打ち、動き始めた賃金、経済、物価を安定に巡航軌道に乗せる年にしなければならぬ」とし、そのためには「賃上げの広がり」と格差是正、「適正な価格転換・適正な取引の徹底、サービスと労働の価値を高め合う取引慣行の醸成」が鍵となるとし、そのうえで、①賃上げ、②働き方の改善、③政策・制度の取り組みを柱とする総合生活闘争の枠組みのもと、産業状況の違いを理解し合いながら、中期的視点を持って「人への投資」と月例賃金の改善に全力を尽くす方針を第94回中央委員会で確認している。連合の春季生活闘争や民間組合の要求動向については、未組織労働者や公務員労働者(人事院勧告)にも影響を与えているのも事実である。林野労組としても、労働者の賃金・労働条件の改善を図るために、官・民・正規・非正規の枠組みにとらわれず共に運動を取り組み、2025春季生活闘争勝利に向けて一致団結してがんばろう。

◎賃上げ取り組みについて、若年層の引き上げが必要であることは理解しているが、中高年層も含めた全労働者が大幅賃上げとなるように取り組んでいただきたい。
●賃上げは、春闘の取り組

今年冬は、地球温暖化の影響によるものであろうか、日本海側では寒波の影響により降雪量が増え、大雪による災害等がニュースで報道される一方、太平洋側においては雨の降る日が少ないため乾燥が続く、山火事の発生が頻発化しており、近隣住民の方たちは避難指示が出され、日夜不安な生活を強いられている。もう暦の上では立春を過ぎていますが、まだまだ春が遠く感じています。▼2025春闘生活闘争にむけ連合は「四半世紀に及ぶ慢性デフレに終止符を打ち、動き始めた賃金、経済、物価を安定に巡航軌道に乗せる年にしなければならぬ」とし、そのためには「賃上げの広がり」と格差是正、「適正な価格転換・適正な取引の徹底、サービスと労働の価値を高め合う取引慣行の醸成」が鍵となるとし、そのうえで、①賃上げ、②働き方の改善、③政策・制度の取り組みを柱とする総合生活闘争の枠組みのもと、産業状況の違いを理解し合いながら、中期的視点を持って「人への投資」と月例賃金の改善に全力を尽くす方針を第94回中央委員会で確認している。連合の春季生活闘争や民間組合の要求動向については、未組織労働者や公務員労働者(人事院勧告)にも影響を与えているのも事実である。林野労組としても、労働者の賃金・労働条件の改善を図るために、官・民・正規・非正規の枠組みにとらわれず共に運動を取り組み、2025春季生活闘争勝利に向けて一致団結してがんばろう。

今年冬は、地球温暖化の影響によるものであろうか、日本海側では寒波の影響により降雪量が増え、大雪による災害等がニュースで報道される一方、太平洋側においては雨の降る日が少ないため乾燥が続く、山火事の発生が頻発化しており、近隣住民の方たちは避難指示が出され、日夜不安な生活を強いられている。もう暦の上では立春を過ぎていますが、まだまだ春が遠く感じています。▼2025春闘生活闘争にむけ連合は「四半世紀に及ぶ慢性デフレに終止符を打ち、動き始めた賃金、経済、物価を安定に巡航軌道に乗せる年にしなければならぬ」とし、そのためには「賃上げの広がり」と格差是正、「適正な価格転換・適正な取引の徹底、サービスと労働の価値を高め合う取引慣行の醸成」が鍵となるとし、そのうえで、①賃上げ、②働き方の改善、③政策・制度の取り組みを柱とする総合生活闘争の枠組みのもと、産業状況の違いを理解し合いながら、中期的視点を持って「人への投資」と月例賃金の改善に全力を尽くす方針を第94回中央委員会で確認している。連合の春季生活闘争や民間組合の要求動向については、未組織労働者や公務員労働者(人事院勧告)にも影響を与えているのも事実である。林野労組としても、労働者の賃金・労働条件の改善を図るために、官・民・正規・非正規の枠組みにとらわれず共に運動を取り組み、2025春季生活闘争勝利に向けて一致団結してがんばろう。

『源泉』
今年冬は、地球温暖化の影響によるものであろうか、日本海側では寒波の影響により降雪量が増え、大雪による災害等がニュースで報道される一方、太平洋側においては雨の降る日が少ないため乾燥が続く、山火事の発生が頻発化しており、近隣住民の方たちは避難指示が出され、日夜不安な生活を強いられている。もう暦の上では立春を過ぎていますが、まだまだ春が遠く感じています。▼2025春闘生活闘争にむけ連合は「四半世紀に及ぶ慢性デフレに終止符を打ち、動き始めた賃金、経済、物価を安定に巡航軌道に乗せる年にしなければならぬ」とし、そのためには「賃上げの広がり」と格差是正、「適正な価格転換・適正な取引の徹底、サービスと労働の価値を高め合う取引慣行の醸成」が鍵となるとし、そのうえで、①賃上げ、②働き方の改善、③政策・制度の取り組みを柱とする総合生活闘争の枠組みのもと、産業状況の違いを理解し合いながら、中期的視点を持って「人への投資」と月例賃金の改善に全力を尽くす方針を第94回中央委員会で確認している。連合の春季生活闘争や民間組合の要求動向については、未組織労働者や公務員労働者(人事院勧告)にも影響を与えているのも事実である。林野労組としても、労働者の賃金・労働条件の改善を図るために、官・民・正規・非正規の枠組みにとらわれず共に運動を取り組み、2025春季生活闘争勝利に向けて一致団結してがんばろう。

【トラネコ】

労働組合の存在感と信頼関係を

～本局分会～



土佐交渉部長

（二面から）
 みが大事であり、各地域での取り組みをお願いしたい。

◎新規採用者等の組織化については、分会大会に出席してもらい、声かけを継続して取り組んでいるが加入には繋がっていない。

◎組織拡大は日頃からの繋がりが大事なので、引き続きの声かけ等をお願いしたい。組合員だけでなく、未加入者も含めたアンケートの実施も検討していきたい。



本局分会神成委員長

◎来年度の事業量がかなりの上積みとなるが、事業体ごなせる事業量とは思えない。

◎予算確保が大きく影響していると思われる。地本は更なる予算確保と担当者任せとならないように求めている。

◎下刈りの省略化を否定しないが、機械的にやられていて現地状況を踏まえていない。

◎本部に現場実態として、意見をしていく



古倉委員（米代西部分会）

本局分会は、神成執行委員長を中心に、地本の藤元及び県都秋田市ということから、様々な集会等に参加する機会があり、他単組との交流も盛んに行われております。

最近では「戦争の扉を開

いた12・8を考える県民集会」「公務労協春闘学習交流会」「2025春季生活闘争ファイティングフォーラム」等に参加し、特に春闘関連では「キャベツが500円、物価上昇に賃金が追いついていない」等、今季春闘がいかに大切かを確認することができました。また、政治・選挙関連では、自民党の「カネと政治」の問題が紹介され「国民が納得できないままやむやみにされている。参議院選では連合推薦議員の勝利を勝ち取る」等が出されておりました。

また1月29日には地本・分会合同の旗開きを開催し、美味しい料理に舌鼓をうちながら、普段の鬱憤を晴らす如く、終始盛況に行われました。

こういった中、本局分会の最大の課題は未加入者の

オルグで感じた交流する場の大切さ

～三陸北部分会～

た。2年ぶりの本部オルグということもあり、どのように進めたいのか等、準備に戸惑うこともありましたが、組合員9名全員でオルグに参加することが出来ました。山田副委員長からは、この間の情勢や国有林の課題、旅費の改正に伴う日額旅費の廃止等について報告いただきました。分会からは、「旅費の改正についてどのように変わるのか」「寒冷地見直しにより、寒冷地手当が支給される範囲はどこまでになるのか。ここ宮古市は雪が降らなくても気温は零度以下に下がります。暖房使用料は変わらないことから、寒冷地手当支給対象地にして欲しい。」等の意見が出されました。

オルグ終了後には懇親会を開催し、山田副委員長と交流を深めました。参

加した仲間からは「久しぶりに仲間と集まって、交流できたので楽しかった。」「中央の副委員長と膝を交えて飲む機会があまり無いので、緊張した。」といった感想が出されました。

分会では、大会も開催できていないため、組合員同士の交流する場をなかなか作れていませんでしたが、交流する場の大切さを改めて感じたオルグでした。

2025年2月3日に全林野関連労働組合副中央執行委員長の山田明裕氏より本部オルグを受けました。

組織化ですが、局内の職場状況は忙しいの一言に尽き、組合員をはじめとする職場の仲間との接点が一仕事しかない」という状況が多々あります。単なる勧誘活動だけではなく、職場内においても労働組合の存在感を出せるような取組と、様々な繋がりに信頼関係を構築し、組織化に向け頑張ります。

山形分会では、安全管理者会議で全森林官が出署する機会を利用し、3か月に一回ですが、昼休み時間に職場集会を定期的に開催しております。

職場集会は、コロナ禍で集まること、話すことが出来ず、昼食を食べながらでも集まって顔合わせできないのか、等組合員からの声があり開催するようになりました。

集会の中身は、情報共有が主ではありますが、職場の不平等・不満も多く出されており、官用車へのバックカメラの設置・熱中症対策

2月26日、連合本荘地協による2025春季生活闘争討論集会が由利本荘市舞鶴会館で開催され、構成組織組合員約50名が結集し、分会からも3名の組合員が参加しました。

冒頭、主催者を代表して、連合本荘地協の清野議長から、「報道によれば、日産とホンダの合併が破綻したとの情報があるが、それは企業の問題であり、日産労組はしっかりと賃上げ要求している。労働組合として組合員の生活を向上するため、ある意味、空気を読まないで賃上げを要求していくことが必要と思っております。」と挨拶がされました。

本集会の講演として、連合秋田の佐藤成樹副事務局長から「2025春季生活闘争の情勢と課題」をテーマに、今春闘での連合秋田の具体的な要求基準として、「相場・中小を含めた賃金引き上げ要求目安を総額15,050円以上・6%以上（昨年13,300円以上）に設定している。全国平均より低い設定となっているが、連合秋田2025地域ミニマム運動から算出している。」「今後の具体的な取り組みとして、4月までに機運情勢に向けた集会や街宣行動を実施していくので、地域においてもしっかりと取り組んでいただき、第二次・第三次の集会に繋げたい」と話されました。

単組報告として、U.A.ゼンセン秋田プリマ食品ユニオン横山委員長から、「会社は原材料の高騰等で厳しい状況にあるが、定昇込み17,000円以上7%を要求。一時金5,000円を要求しているが実際は4,000円と聞いていない。」といった状況報告され、最後に今春闘を地域で精一杯取り組んでいくことを全体で確認し、清野議長による団結ガンパローで本討論集会は終了しました。

投稿者 本局分会 津嶋



昼休み職場集会



組合員からの局交渉報告

マに、今春闘での連合秋田の具体的な要求基準として、「相場・中小を含めた賃金引き上げ要求目安を総額15,050円以上・6%以上（昨年13,300円以上）に設定している。全国平均より低い設定となっているが、連合秋田2025地域ミニマム運動から算出している。」「今後の具体的な取り組みとして、4月までに機運情勢に向けた集会や街宣行動を実施していくので、地域においてもしっかりと取り組んでいただき、第二次・第三次の集会に繋げたい」と話されました。

単組報告として、U.A.ゼンセン秋田プリマ食品ユニオン横山委員長から、「会社は原材料の高騰等で厳しい状況にあるが、定昇込み17,000円以上7%を要求。一時金5,000円を要求しているが実際は4,000円と聞いていない。」といった状況報告され、最後に今春闘を地域で精一杯取り組んでいくことを全体で確認し、清野議長による団結ガンパローで本討論集会は終了しました。

昼食を食べて情報共有を

～山形分会～

2月の集会では、地本委員会からの報告と、地本青年女性委員会の局交渉に参加した仲間から、交渉で発言した内容と参加しての感想を報告してもらいました。

（山形分会 大戸）



討論集会の様子

2月26日、連合本荘地協による2025春季生活闘争討論集会が由利本荘市舞鶴会館で開催され、構成組織組合員約50名が結集し、分会からも3名の組合員が参加しました。

冒頭、主催者を代表して、連合本荘地協の清野議長から、「報道によれば、日産とホンダの合併が破綻したとの情報があるが、それは企業の問題であり、日産労組はしっかりと賃上げ要求している。労働組合として組合員の生活を向上するため、ある意味、空気を読まないで賃上げを要求していくことが必要と思っております。」と挨拶がされました。

本集会の講演として、連合秋田の佐藤成樹副事務局長から「2025春季生活闘争の情勢と課題」をテーマに、今春闘での連合秋田の具体的な要求基準として、「相場・中小を含めた賃金引き上げ要求目安を総額15,050円以上・6%以上（昨年13,300円以上）に設定している。全国平均より低い設定となっているが、連合秋田2025地域ミニマム運動から算出している。」「今後の具体的な取り組みとして、4月までに機運情勢に向けた集会や街宣行動を実施していくので、地域においてもしっかりと取り組んでいただき、第二次・第三次の集会に繋げたい」と話されました。

単組報告として、U.A.ゼンセン秋田プリマ食品ユニオン横山委員長から、「会社は原材料の高騰等で厳しい状況にあるが、定昇込み17,000円以上7%を要求。一時金5,000円を要求しているが実際は4,000円と聞いていない。」といった状況報告され、最後に今春闘を地域で精一杯取り組んでいくことを全体で確認し、清野議長による団結ガンパローで本討論集会は終了しました。



中央本部：山田副委員長

連合本荘地協 春季生活闘争討論集会に参加

～由利分会～



連合秋田：佐藤副事務局長